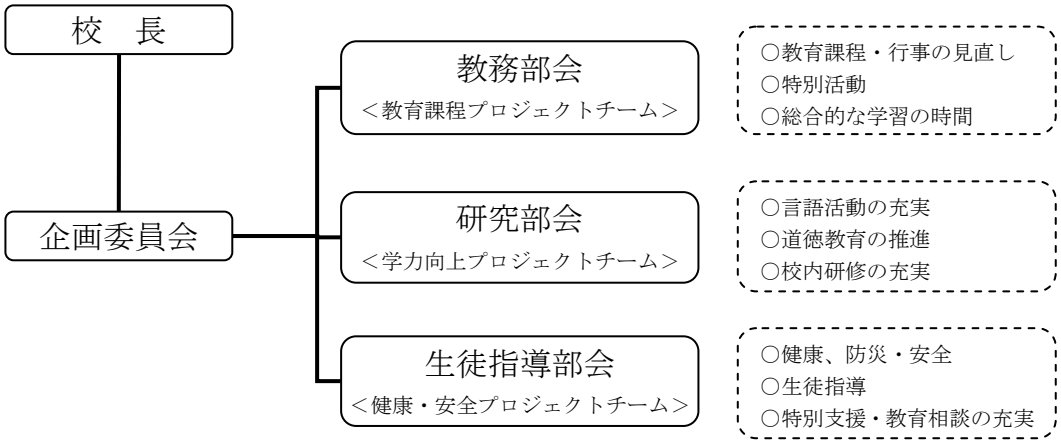
§２　研 究 主 題

学校名	九 度 山 町 立 河 根 小 中 学 校
研究主題	言語活動の充実、豊かな心をもって自己決定ができる実践力の育成
主題設定の理由	本校は自然豊かな環境の中にあり、児童生徒はゆったりと落ち着いた学校生活を送っている。児童は、休み時間には全員が運動場に出て元気よく遊び、学年をこえて活動できている。生徒は落ち着いた学習態度で、生徒会活動や部活動にも熱心に取り組んでいる。また、小学校の卒業生がそのまま中学校に入学してくるため、お互いのことをよく知っており、小中合同で取り組む運動会や文化祭等の交流を通して全員仲が良い。学習面でも小中９年間の見通しと系統性を重視した教科指導を教員が行うなど、小中学校一貫教育を推進している。 しかし、全校児童生徒１５人に満たない小規模校のため、互いに切磋琢磨しあう場面が少なく、多様な価値観に触れることが難しい。また、指示されたことには何にでも真面目に取り組む一方で、自ら考え進んで行動したり、周囲の状況を考え献身的に行動したりするなど、考えの異なる人との協調や社会貢献の精神、自立心・道徳的価値観を大切にする心を鍛える場に恵まれていない。さらに、個々の学力に開きがあり、他の人の意見を聞いたり、互いの考えを出し合う機会が少ないなど、小規模校特有の問題点もあり、それが生活面や学習面に影響を及ぼしている。加えて、校区外からの通学生もあり、個別の課題も見られる。 昨年度は、算数・数学部会は学習内容の系統性と指導方法の研究を行った。児童生徒の理解度を把握し、個々のつまずきに応じた指導をするとともに、９年間のつまずきやすい学習内容を調べ、それを指導に活かせるようにした。さらに、文章題から立式するための工夫や自分の考えを説明する機会を作るなど授業における言語活動の充実を目指して研究を行った。 言語部会では各教科での言語活動の充実として、小学校では、単元を貫く言語活動と話し方・聞き方スキルの徹底に取り組んだ。中学校では、互いに意見を出し合う話し合い活動や文脈に沿って要点をまとめる要約の学習を取り入れた。また、「小中読書交流会」を行い、語彙や表現に触れるとともに自分の意見をまとめたり、発表する機会を意図的につくってきた。 その結果、算数・数学部会では、基礎学力の定着について一定の成果が見られたが、文章題の「読み取りの力」や「思考力」・「判断力」については課題を残した。言語部会では、表現モデルを提示することで「書くこと」が少しずつできてきているが、国語科で学んだことが他の教科に生かされていないという課題がある。 今年度はこれまでの小中連携の実践を活かし、算数・数学部会での基礎学力の定着を図る取組は継続させながら、各教科の特性を踏まえた言語活動の充実を通して「書く力」「読む力」「聞く力」「話す力」を含めた「伝える力」を育てる取組をしていきたい。併せて、総合的な学習の時間や道徳教育においても、各教科との連携を図りながら、「ことばの力」を高めたい。そして、自分の意見を述べるだけに留まらず、他者からの意見を取り入れ、互いの意見のすり合わせを行うことで自らの考えを変容させ、自らを律し、他と協調しながら主体的・意欲的に行動できる児童生徒を育成したい。このような取組を通じて、確かな基礎学力の向上と自立に向かう実践力の向上にさらに努めたいと考え、本主題を設定した。

研究内容	1　学習指導の充実 (1)「伝える力」を育てる系統的な授業の工夫、教材研究 (2) 児童生徒が主体的に取り組む授業内容や指導法の研究 (3) 各教科と総合的な学習の時間との連携 (4) 朝の学習・補充学習や家庭学習を充実させ、基礎・基本の定着 (5) 読書活動の充実 2　主体的な活動の充実 (1) 児童会・生徒会活動の連携と活性化 (2) 体験学習を生かした自主的な活動の推進 (3) 学校行事・部活体験など小中の交流活動の推進 3　道徳教育の充実 (1) 各教科の学習と道徳の時間を関連させ、言語活動を中心とした授業の実践 (2) 道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践する道徳的実践力の育成 4　特別支援教育の充実 (1) 特別支援教育・交流教育の推進 (2) スクールカウンセラーとの連携による教育相談活動の推進
研究組織	
研究方法	研究部会を中心に年間の研究計画を立案し、全職員の共通理解と指導体制の確立を図り、言語活動の充実を深める研究の推進に努める。 ○全国学力学習状況調査と県到達度テストの結果の分析を通して、学習課題を明確にし、指導法の工夫・改善を図る。 ○研究部会では各教科における「伝える力」を育てるための指導方法を研究し、関連性を踏まえ指導法を共有する。 ○中間期検証を行い、取組の効果を確認し、必要があれば修正を加える。 ○地域や家庭・関係機関とも十分連携し、取組の充実と理解を図る。 ○各取組の評価や学校評価の反省をもとにして、次の課題を明らかにする。 ○校内研修の一環として全教員が「言語活動の充実」を共通のテーマとした公開授業を行い、また、授業を参観することで指導力を高める。